

タンクローリーやタンカーの大型化などにより、 効率化・省エネルギーを推進しています。

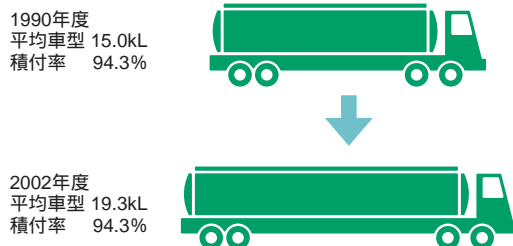
石油製品は、製油所から全国のSS(サービスステーション)や油槽所、お客様の工場などに向けて、タンクローリーや内航タンカーなどによって輸送されます。当社は、タンクローリーや内航タンカーの大型化、油槽所の統廃合、他社との共同化など、早くから物流の効率化・省エネルギーに取り組んできました。燃料消費に関しては、陸上・海上ともに、2010年までに1990年度比で9%の削減を目標としていますが、すでにこの目標を上回る成果をあげています。

また、事故防止のための施策として、運送協力会社に対して、従業員の安全教育を奨励するとともにタンクローリーの標準設備仕様を策定して、徹底しています。さらに、安全な輸送に功績のあった協力会社を表彰しています。

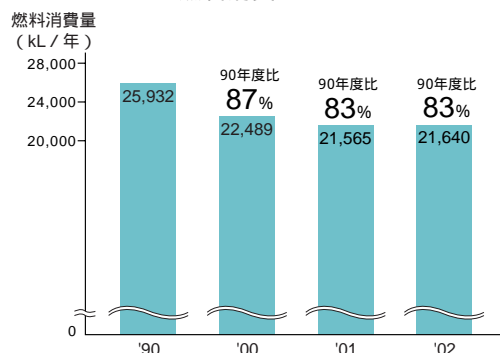
陸上輸送の効率化・省エネルギー

陸上輸送では、車輛の大型化や稼働時間の延長、台数の削減などにより、省エネルギー化を図っています。ローリー1台当たりの稼働時間は、夜間配送、日曜祭日配送の拡大などによって増加しましたが、台数に関しては、輸送量の増加に対応し、2002年度は前年並みとなりました。これに伴い、年間の燃料消費量に関しても、1990年度比では

タンクローリーの平均車型と積付率



タンクローリーの燃料消費量



2001年度と同等の17%の削減となりました。

今後は、積付率の向上や、夜間配送の拡大による配送効率の向上に努め、エネルギー消費量の削減を推進します。



大型化するタンクローリー

海上輸送の効率化・省エネルギー

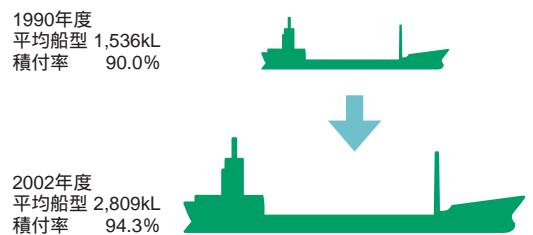
製油所から物流基地、油槽所などへの輸送には、数千トン級の内航タンカーを使用します。2002年度は、前年度に比べ輸送量が若干増大したもののタンカーの大型化、積付率・稼働率の向上により、1990年度比15%減と、2001年度と同等の燃料の削減を達成しました。

今後も、新日本石油(株)との提携を活かした受入基地の共同化などにより、タンカーの大型化を進めるとともに、配船のミスマッチの低減や、休日・夜間荷役の推進による輸送の効率化と省エネルギーに努めていきます。



大型化する内航タンカー

内航タンカーの平均船型と積付率



内航タンカーの燃料消費量

